

定例調査 ひめしん景況レポートNo.181 (2020年12月期調査)

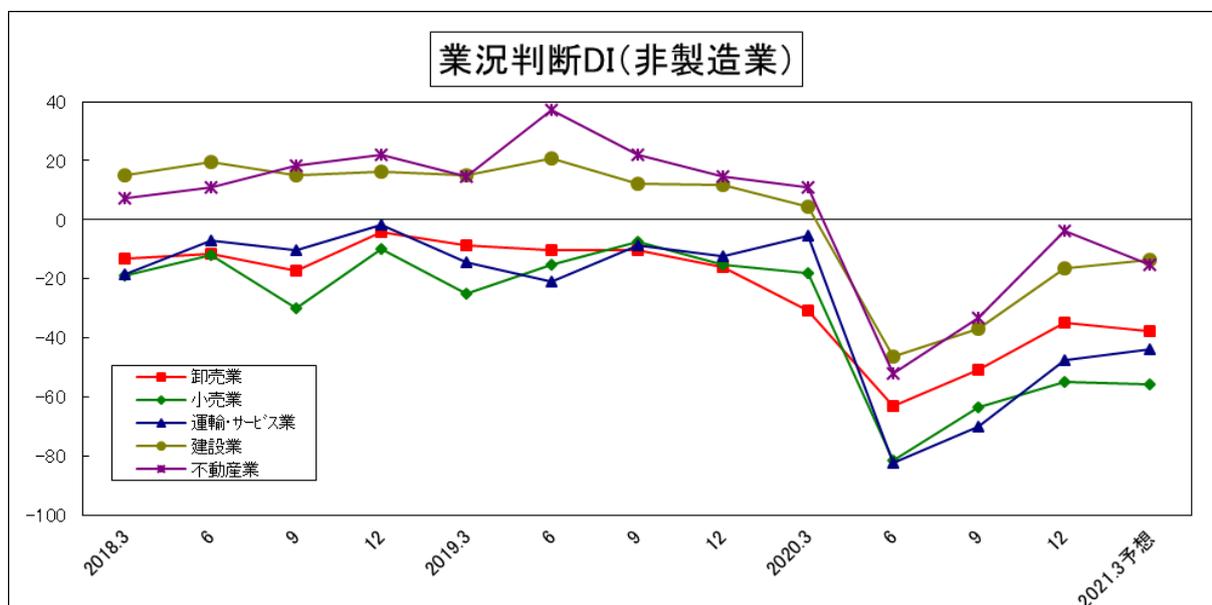
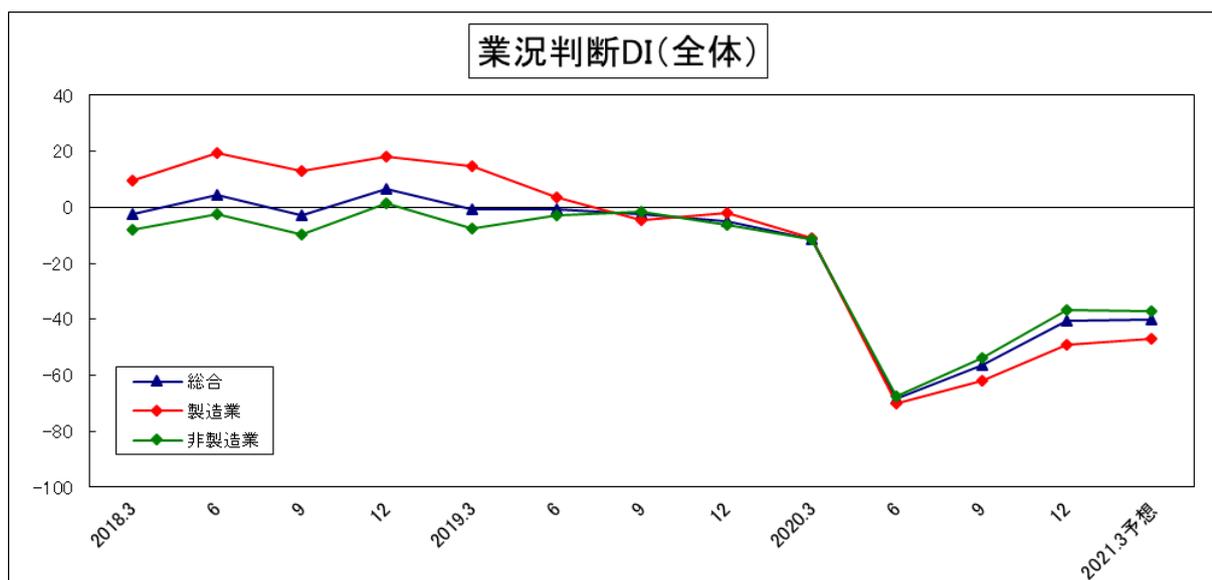
約450社のお客さまを対象に「中小企業景気動向調査」を四半期に1回実施している。その結果を取りまとめましたのでご覧ください。

- 調査時点・内容 2020年12月上旬・2020年10-12月期実績、2021年1-3月期見通し
- 調査対象 当金庫の取引先 450社 (有効回答数446社：有効回答率 99.1%)
- 業種別内訳 製造業(136社)、卸売業(67社)、小売業(93社)、運輸・サービス業(57社)、建設業(67社)、不動産業(26社)
- 分析方法 DIによる分析方法を採用 DI = 「増加(良い)」の割合 - 「減少(悪い)」の割合

<2020年10-12月期の概況>

■業況判断DIの推移

業種	調査時期	3期前	前々期	前期	今期	来期(予想)
		2020/1-3期	2020/4-6期	2020/7-9期	2020/10-12期	2021/1-3期
総合	(446社)	-11 (↓)	-68 (↓)	-56 (↑)	-40 (↑)	-40 (→)
製造業	(136社)	-11 (↓)	-70 (↓)	-62 (↑)	-49 (↑)	-47 (↑)
非製造業	(310社)	-11 (↓)	-68 (↓)	-54 (↑)	-37 (↑)	-37 (→)
卸売業	(67社)	-31 (↓)	-63 (↓)	-51 (↑)	-35 (↑)	-38 (↓)
小売業	(93社)	-18 (↓)	-82 (↓)	-63 (↑)	-55 (↑)	-56 (↓)
運輸・サービス業	(57社)	-5 (↑)	-82 (↓)	-70 (↑)	-47 (↑)	-44 (↑)
建設業	(67社)	5 (↓)	-46 (↓)	-37 (↑)	-16 (↑)	-13 (↑)
不動産業	(26社)	11 (↓)	-52 (↓)	-33 (↑)	-4 (↑)	-15 (↓)



●総合（446社） 播磨地方の景況感は大幅改善

- （今期実績） 今期（2020年10-12月期）の全業種総合の業況判断D Iは、前期（2020年7-9月期）▲56から16ポイント改善の▲40となった。
- （業種別） 製造業は前期比13ポイント改善の▲49となり2四半期連続の改善、非製造業は前期比17ポイント改善の▲37となり2四半期連続で改善した。
- （来期予想） 来期（2021年1-3月期）の予想業況判断D Iは、全業種総合で横這いの▲40、製造業で2ポイント改善の▲47、非製造業で横這いの▲37となる見通し。

○製造業（136社） 2四半期連続の改善

- （今期実績） ▲49（前期比+13pt）（来期予想）▲47（今期比+2pt）
- （業種別） 21業種中、一般機械器具、食料品など10業種で改善、金属製品、建築用金属製品など7業種で悪化。
- （コメント） イベントの中止が相次ぎ3割の減収が続いている。また、市況の低迷により同業種間での競争が激化しており、単価引き下げ要請もあり、厳しい状況が続く見込み。（印刷業）
外注委託していた作業を自社で行うなど経費削減を図り、利益改善計画。他社の倒産などにより受注は増加。（一般機械器具）

○卸売業（67社） 2四半期連続の改善

- （今期実績） ▲35（前期比+16pt）（来期予想）▲38（今期比-3pt）
- （業種別） 9業種中、機械器具、農畜産物・水産物など4業種で改善、飲食料品、金属材料など3業種で悪化。
- （コメント） 米中貿易摩擦の長期化を受けて鉄鋼需要低迷しており、加えてコロナの影響で売上減少。自動車関連中心に需要は回復傾向にあるが当面は厳しい状況が続く見込み。（金属材料）
コロナ禍でホームセンター向け販売が増加し売上はやや増加。（建築材料）

○小売業（93社） 2四半期連続の改善

- （今期実績） ▲55（前期比+8pt）（来期予想）▲56（今期比-1pt）
- （業種別） 12業種中、飲食料品、衣服身回品など7業種で改善、医薬品・化粧品で悪化。
- （コメント） コロナの影響を受け、売上減少。ネット販売を行うなど売上確保目指して努力し、一定の効果が出ている。（飲食料品）
一時的にエアコン等の家電製品の売上が増加していたが、現在は減少している。（家電機器）

○運輸・サービス業（57社） 2四半期連続の改善

- （今期実績） ▲47（前期比+23pt）（来期予想）▲44（今期比+3pt）
- （業種別） 7業種中、運輸業、自動車整備・駐車場など5業種で改善、修理業で悪化。
- （コメント） 看護師、医師の人手不足が起こっている。（その他）
コロナの影響の他、従業員の高齢化、人材確保難等の内部要因も重なり非常に厳しい状況。事業策定計画が急務である。（運輸業）

○建設業（67社） 2四半期連続の改善

- （今期実績） ▲16（前期比+21pt）（来期予想）▲13（今期比+3pt）
- （業種別） 3業種中、総合工事、職別工事など全業種で改善。
- （コメント） コロナ禍で、自粛中に改装を行う飲食店等が多く、業況旺盛。外注先が足りないほどの受注があり、業況不安なし。（職別工事）
コロナの影響で工事遅延の状況が多く、年度末までのタイムスケジュールがひっ迫。また人材不足もあり育成、獲得に注力したい。（職別工事）

○不動産業（26社） 2四半期連続の大幅改善

- （今期実績） ▲4（前期比+29pt）（来期予想）▲15（今期比-11pt）
- （業種別） 4業種中、建売・土地売買、不動産代理・仲介で改善、貸事務所・土地賃貸、貸家・貸間で横這い。
- （コメント） 家賃収入に大きな変動はないが、コロナ禍での景気悪化が長引けば賃下げ要請など賃料に悪影響が出る。（貸事務所・土地賃貸）
コロナの影響をほぼ受けず。個人顧客の消費マインドの低下により仲介業務については今後減少する見通し。（不動産代理・仲介）